

理科

教 科	科 目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
理科	科学と人間生活	2	1年次・全	必修
使用教科書（出版社）		副教材（準備するもの）		履修の条件・連絡
科学と人間生活（東京書籍）		ニューサポート 科学と人間生活		履修条件なし 1年次必修科目

1 科目の目標と評価の観点

目 標		
・自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。 ・観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。 ・自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。		
評価の観点及びその主旨		
1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
・自然と人間生活との関わりおよび科学技術と人間生活との関わりについて理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身に付けている。	・人間生活と関連のある自然の事物や現象の中に問題を見だし、見通しをもって実験・観察などを行うとともに、ものごとを論理的に考察したり分析したりし、それを表現することができる。	・自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度が養われている。 ・科学技術の発展と人間生活との関わりについてその基盤となる科学に対する興味・関心を高めている。

2 学習計画と観点別評価項目

学 習 の 年 間 計 画	学期	学習内容（単元・項目）		月	学習のねらい	評価の観点
	1 学 期	序編 1編 生命の化学	科学技術の発展	4月	・科学技術の発展と人間生活との関わりについて探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。	1 2 3
		2編 物質の化学	2章 人の生命現象 1 ヒトの視覚と光による影響 2 血糖濃度を調節するしくみ 3 体を守る免疫のしくみ 4 生命現象の大もととなる遺伝子のはたらき	5月	・ヒトの生命現象について、人間生活と関連付けて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付け、科学的に探究しようとする態度を養う。	1 3 1 2 3 1 2
			1章 材料とその再利用 1 リサイクルとは何か	6月 7月	・金属やプラスチックの種類・性質および用途と資源の再利用について、日常生活と関連付けて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付け、科学的に探究しようとする態度を養う。	1 3 1 3
	2 学 期	3編 光や熱の科学	2 金属の性質とその再利用 3 プラスチックの性質とその再利用	9月		1 2 1 2 3
			1章 光の性質とその利用 1 光の進み方とその基本的な性質 2 目に見える光とその色の見え方 3 目に見えない光とその利用	10月 11月 12月	・光を中心とした電磁波の性質とその利用について、日常生活と関連付けて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付け、科学的に探究しようとする態度を養う。	1 2 3 1 2 1 3
	3 学 期	4編 宇宙や地球の科学	1章 太陽と地球 1 太陽と月のもたらすリズム 2 太陽が動かす大気と水	1月 2月 3月	・太陽などの身近に見られる天体の運動や太陽の放射エネルギーについて、人間生活と関連付けて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付け、科学的に探究しようとする態度を養う。	1 2 3 1 2 3

令和6年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

学 習 評 価	観点	1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
	規 準	○学習内容（自然現象や法則）を理解できているか。 ○実験・観察の技能が身に付いているか。	○学習内容について、知識だけでなく論理的に説明することができるか。 ○実験・観察において、適切な手法を選ぶことができているか。また、科学的思考を持って結論を導き、それを表現できているか。	○学習内容に興味・関心をもち、自ら調べようとしているか。 ○自然や科学技術と人間生活との関わりについて、主体的に学び、探求しようとしているか。
	手 段	・小テストや定期考査の知識問題の解答 ・観察・実験技能の相互評価と行動観察	・定期考査の論述問題の解答 ・課題レポートや実験レポートの記述内容の評価	・授業態度等の行動観察 ・課題、レポートへの取組の評価
	単元末や学期末及び年次末における評価の総括方法		3 観点について単元ごとに評価し、学期末にはその学期に学習した単元を、年次末には全単元の学習を観点別に評価する。 評点は3 観点を均等に評価し、100 点法で表記する。	
	学習上の留意点	・教科書中心に授業を展開するので、教科書を読むなどの予習をしておこう。 ・結論を知識として覚えるだけでなく、結論に至るまでの思考過程を大切にしよう。 ・実験のレポートや授業ノート、課題などの提出物はすべて必ず提出しよう。		